

第2期くるめ支え合うプラン（R8～R12）骨子（案）について （第4期地域福祉計画・第7次地域福祉活動計画）

※くるめ支え合うプランを以下、「プラン」という。

◆策定の基本姿勢（R7.2「プラン策定方針」より）

- 第1期プランの取組みを踏まえ、現状や課題を整理
- 国による社会福祉法改正、重層的支援体制整備事業の見直し、地域福祉計画策定のガイドライン等を踏まえる
- 総合計画に沿うとともに、他の関連計画との整合を図る
- 「地域共生社会」実現のため、地域住民等にめざす姿を分かりやすく伝える
 - 地域住民等にとって、手にとりやすく、具体的取組みのきっかけになるものになるよう、ボリュームや体裁を工夫
- 地域住民をはじめとする多様な主体と策定過程を共有し地域福祉の意識醸成を図る
 - ヒアリング、ワークショップの意見を丁寧に記載
- 進捗状況を確認しやすい評価指標を設定する
 - 評価指標を取組項目ごとに設定し進捗を評価

1 第2期プラン策定にあたって

（1）策定の趣旨

第1期プラン期間の終了に伴い、地域社会を取り巻く環境の変化や新たな課題を踏まえつつ、引き続き「地域共生社会の実現」をめざし地域福祉の推進に取り組んでいくため、住民やボランティア、行政・関係諸機関、社会福祉関係者が協働し地域全体で生活課題の解決に取り組む指針として、令和8年度を始期とする第2期プランを策定する。

（2）プランの位置づけ

○第1期プランの法的性格を引継ぎ、社会福祉法第107条に基づく市町村計画である「久留米市地域福祉計画」と市社協の計画である「地域福祉活動計画」を一体的に策定する。

また、以下の計画を内包する。

- ◆ 重層的支援体制整備事業実施計画（社会福祉法第106条の5）
- ◆ 再犯防止推進計画（再犯の防止等の推進に関する法律第8条）
- ◆ 成年後見制度利用促進市町村計画（成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条第1項）

○総合計画を上位計画とし、福祉の各分野に共通する事項や「複合的な課題」「制度の狭間の課題」への対応方策などを記載した、福祉の各計画や関連する計画の基本となる計画とする。

○各校区で作成する「校区福祉活動計画」と連携して取り組む指針とする。

(3) 計画期間

令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間

※次期総合計画の基本計画（前期 5 年、後期 5 年）と整合を図る

2 これまでの成果と課題（第 1 期プラン（R2～R7）の総括）

(1) 第 1 期プランの取組状況（本編 p 5～6、資料編 p 10～14）

○第 1 期プランでは、課題を 8 つに整理し、それに対応する 13 の取組項目を定め、『支え合うところあふれるまち くるめ』の実現に向け、様々な取組みを進めました。

（主な取組み・成果）

- ・重層的支援体制整備事業の実施
- ・「支え合い推進会議」の設置・生活支援コーディネーターによる伴走支援（生活支援体制整備事業）
- ・食料支援を通じたつながりや見守り活動の充実（子ども食堂や食料支援団体）
- ・災害 NPO などの専門集団、企業・事業所等と連携した災害ボランティアセンター運営、アウトリーチによる被災者支援、平時からの体制構築
- ・判断能力が不十分な本人やその親族、弁護士などの専門職団体、地域の関係機関等のネットワークをコーディネートする中核機関の設置
- ・「人生あんしん事業」の開始
- ・市と市民活動団体の協働による「ふるさと納税制度」を活用したクラウドファンディング
- ・福祉体験など、学校、企業等への福祉教育の働きかけの強化
- ・「ライフレスキュー久留米連絡会」（平成 30 年度発足）の取組み

○第1期プランの成果目標については、ほとんどが達成に至っていません。

	成果指標	目標	実績
全体	地域での支え合いや助け合いが充実していると感じる市民の割合	70.0%	61.3% (R6 調査)
関係を豊かにする	地域での見守り訪問活動件数(ふれあいの会による訪問活動件数)	296,000 件	248,933 件 (R6実績)
寄り添う体制を整える	生活自立支援センターの新規相談受付件数	1,020 件	1,181 件 (R6実績)
地域とともに 創る人を育む	①助けを求めることができる人がいる市民の割合	87.0%	82.8% (R4 調査)
	②困っている人の相談にのることができる市民の割合	29.0%	23.8% (R4 調査)

(2) 第2期プランに向けた課題(本編p6)

- ◆重層事業の取組みを進め、既存の支援体制では対応が難しい課題に対する対応力の向上。
- ◆これまでの取組みを基盤に、地域の支え合いの仕組みづくりを推進。
- ◆地域住民、市民活動団体・企業等の多様な主体との連携・協働の促進。
- ◆災害時における多様な主体との連携の強化や、災害時に備えた平時からの体制構築。
- ◆成年後見制度の利用が必要な人を発見し、適切に必要な支援につなげる「地域連携ネットワーク」の整備検討などの権利擁護の推進。
- ◆福祉の意識啓発、社会福祉法人の公益的な取組みの促進。

(3) 見えてきたキーワード・ニーズ(本編p7)

①人と人、地域のつながりの大切さ
②居場所があることの安心感
③相談がしやすい環境づくり
④あらゆる課題へ対応できる体制
⑤災害に備えた日頃からのつながり
⑥地域活動を楽しんでいると感じられる
⑦地域へ参加できるきっかけ
⑧相手に届く情報発信

3 第2期プランの施策体系・具体的な取組み（本編 p 8～12、資料編 p 15～20）

（1）めざす姿

みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ

（2）基本的な視点

- ともにある人を育む
- 支え合う地域をつくる
- 安心できる仕組みをつくる

（3）取組項目

取組項目	取組み・方向性
1 とともに生きるところを育む取組みの推進	○「ふくし」が育まれる、福祉教育の推進 ○お互いを尊重し合う意識の醸成
2 権利を守る取組みの推進	○本人の意思決定を尊重した権利擁護支援 ○人権尊重とあらゆる差別の解消
3 福祉のまちづくりへの参画促進	○社会福祉法人や企業との連携・協働 ○一歩踏み出せる多様な参加機会創出
4 見守り活動・交流の場や居場所づくりの推進	○多様な見守り活動による支え合い推進 ○出会い、交流できるつながりの機会の創出
5 災害時支援に備えた取組みの推進	○日常の備えから始める地域防災力向上 ○避難に配慮が必要な人の避難支援の充実
6 包括的な相談支援の推進	○地域住民等と協働した支援体制整備 ○本人の思いに寄り添った伴走型支援の実施

4 策定の経過と今後のスケジュール

期日	取組内容
令和6年8月～（随時）	団体へのヒアリング、アンケート
令和6年10月	くるめ支え合うプラン推進協議会・部会の委員アンケート
令和6年10～11月	在宅高齢者基礎調査
令和6年11月	くるモニ
令和7年3～6月	ワークショップ（5圏域5校区）
令和7年6～令和8年2月	市民意識調査
令和7年8月（予定）	教育民生常任委員会報告
令和7年12月（予定）	市民説明会、パブリックコメント
令和8年3月	策定